

令和3年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立宗像高等学校

自己評価		学校運営計画(4月)		評価(総合)	
学校運営方針	(1)校訓「質実剛健 自強不息」を体現するため、学習活動・学校行事等を通して協働性や探究力、コミュニケーション力を伸ばし、生徒の主体性を重視した教育活動を推進する。 (2)激しく変化し、多様化する社会に柔軟に対応するため、人権感覚を高め、高い人権意識に基づく全教科全領域での人権・同和教育の充実を図る。 (3)教育改革に伴う変化に的確に対応するため、職員間の協働性と課題解決に向けた実行力を高め、本校の特色を生かした魅力ある中高一貫教育を推進する。			A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
コロナ禍という未曾有の状況下で、ピンチをチャンスと捉え、ICT機器の利活用能力を高めることができた。学校行事や学習活動の在り方にも工夫を凝らし、成果を出すことができた。 今年度は、引き続きウィズコロナの中で更に学校力を高め、中高一貫教育校としての魅力をアピールしていかねばならない。学習活動や学校行事全般を通して生徒の主体性を重視し、課題解決能力やリーダーシップ等の育成に工夫を凝らし、柔軟に対応していくことが求められる。	力を伸ばす学習指導と授業改善	生徒が課題意識を持って自ら学習に取り組む姿勢、粘り強く物事を探究する姿勢を育成する。 生徒の実態を踏まえ、生徒の力を最大限伸ばすために、「ハイブリッド型学習」をはじめとする「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を推進する。 大学入試改革に対応した学習指導の研究と実践に取り組むと共に、難関大志望者に対応する教科指導力の向上と指導体制の整備を推進する。			
	自律心を涵養する生徒指導	ルールやしくみの意味についてよく考え、その理解に基づいて自らを律し、生徒相互の力によって、より良い学校生活を実現する意識と姿勢を育成する。 協働性、探究力、コミュニケーション力の育成や、自己の役割に対する責任感の醸成につながるよう、学校行事のあり方や内容について改善・充実を図る。 生徒の主体性を重視した学校行事・部活動等を通して、生徒の自尊感情と母校愛を高め、リーダーシップと粘り強く物事にチャレンジする姿勢を育成する。			
	高い志を育てる進路指導	中高一貫教育校として、6年間を見通した進路指導・キャリア教育の体系的指導計画(マトリックス等)を策定し、継続的にその改善・充実を図る。 模擬試験等の的確な分析を行い生徒の客観的状況を性格に把握するとともに、全学年でその共有を図る。また、生徒用「進路資料」の内容の充実を図る。 「夢に向かって」の意義等について指導を徹底し、「夢に向かって」を継続的・効果的に活用し、自らの将来の目標実現に向けた実践力を育成する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教育推進部	教育計画課	新学習指導要領および大学入試改革に対応した教育課程を策定するとともに、その効果的運用について検討する。 新校務支援システムを効果的に活用し、生徒の学習活動を支援する。	A A B	A A A	・大学入試改革に対応した新入生向け教育課程を再検討する。 ・観点別評価や時制の変更等、新たな取組に向けた協力体制を構築する。
	企画庶務課	学年や他の分掌と連携し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習指導を支援する。 生徒の主体性の涵養につながるよう、式典やPTAの活動を企画・実施する。 生徒や職員の学校生活の充実へ資する活動を展開する。	A A B	A A A	・成果(連携・オンライン)を推進していく。 ・奨学金の周知を図る。
	広報課	宗像高校の魅力を発信する効果的な広報活動を展開する。 地域や近隣の学校と情報を共有し、連携を図る。	A A B A	A A B B	・中学校への情報発信を工夫する。 ・ボランティアなどの情報を発信し、参加を促す。
生徒支援部	生徒指導課	質実剛健の精神に基づき、高い規範意識と自律の精神を持ち、思いやりのある生徒の育成を図る。 高い志を持ち、生徒会活動や部活動を通して目標達成に向けて粘り強く挑戦し続ける生徒を育成する。	A A A	B B A	・各学年で身につけておくべき時期に必要なことを身につけさせる。 ・全職員で一貫した生徒指導を行う。
	保健環境課	より効果的な感染症対策を実施するなかで、よりたくましく生徒を育てる。 中高一貫校として中高間の連携を深め、生徒の心身両面の情報共有に努める。	A A A	A A A	・感染症対策を継続するとともに生徒の清掃美化意識を啓発する。 ・より一層、生徒の理解を図り、様々な情報共有に努める。
進路支援部	進路指導課	入試および希望進路の多様化に対応し、進路実現のための指導体制を整備する。 興味・関心と自分の特性を踏まえた進路選択および受験種類の選択ができる生徒を育成する。	A A A	A A A	・スタディサポートや模試を各学年で分析し、指導の見直しをどう行うのかを全体で共有する。 ・入試情報の共有、生徒への情報発信を引き続き行う。
	キャリア教育課	学校における学びを自己のキャリア形成に生かす。 進路意識の向上を図る。	A A B	A A B	・総合的な探究の時間のさらなる充実改善を行う。 ・文系学部の出前講義を計画する。
研究開発部	研修課	教育改革に伴う変化に的確に対応するために職員研修の充実と精選をはかる。 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を推進する。	A A A	A A A	・観点別評価や新教育課程への対応等、現状に即した職員研修を実施する。 ・ICT機器を活用した授業の更なる推進。
	図書課	生徒の主体的な学びを支援する「学習情報センター」としての機能を充実させる。 生徒及び図書委員会の協働的な活動を促す取り組みをし、「読書センター」としての機能を強化する。	A A A	B B A	・生徒の実態に即した図書館行事の見直しと、より生徒図書委員が主体となって取り組めるような工夫。 ・図書館業務の安定的な引き継ぎ。
学年部	第1学年	学ぶことの意義を自覚させ、主体的に学び、志高く努力する姿勢を育成する。 様々な体験活動を推進し、自律と協働の態度、挑戦し創造する姿勢を育成する。	A A A	B B B	・来年度、学校の中核を担う学年として、先輩に範を示し、先輩を支える自覚を身につけさせていく。 ・生徒の学力差がとて大きく、様々な生徒に対応した指導体制が必要である。教科間、学年間の情報共有をより密にして
	第2学年	行事や部活動、生徒会活動に主体的に取り組ませ、リーダーシップを育成する。 高い志を持ち、主体的に計画し学習に取り組む姿勢、粘り強く努力する姿勢を養う。	A A B	B B B	・自己表現やコミュニケーションが苦手な生徒のフォロー体制作り(学習面へも影響)。 ・夢むの活用を徹底できず。学習量や生活習慣の確認に生かせなかった。
	第3学年	最高学年としてリーダーシップを発揮し、粘り強くチャレンジする生徒を育成する。 高い志を持ち、自ら励み未来を拓く生徒を育成する。	A A B	B B B	・学力の差が大きくなっているため、中間層の生徒たちへの支援を多く行い、全体の学力低下を防ぐ。 ・「総合的な探究の時間」のテーマ設定や探究活動と進路のつながりを明確に意識させる。
学校いじめ防止基本方針	全職員の共通理解の下、組織的にいじめを生まない学校風土作りを推進する。 いじめ・不登校対策委員会が定期的にとり組みを検討・改善する。	個人面談や教育相談を定期的・計画的に行い関係職員で連携して課題解決に臨む。 定期的なアンケートを実施し、日常的に生徒の行動の様子を把握する。 校内研修により職員の共通理解を図り、スクールカウンセラー等専門家の意見を交え、担任や職員全体への助言等を行うように努める。	A A A	A A A	・学校いじめ防止基本方針に則り、職員、生徒、保護者の共通理解のもと、取り組みを進めていく。